

## 10月号「こどもが不安を抱える要因 その1:学校生活」

文部科学省の調査によれば、8割のこどもが学校について「友だちといっしょに学ぶことができている」と感じているようです(※1)。その一方で意外と思うかもしれませんが、学校生活に苦しんでいる子がいます。

たとえば不登校になる子たちです。不登校になる理由として、こども自身が多く挙げたのは「いじめを含む人間関係のトラブル」「教師との関係」でした(※2)。このほかにもたくさんの要因や背景があるのですが、それらが重なり合って身体症状が出たり、心理的に疲弊したりして登校ができなくなります。

長く取材をしてきて感じるのは、複数の要因が重なり合っているため、原因を特定して除去しようしても解決には至らないこと。逆に、どんなケースでも心の傷が癒えれば、本人に適した環境で活発に学ぶことが可能です。

不登校に至っていなくても、学校生活に不安を抱えるこどもへの支援は同じだと思うのです。どうしたらその子が笑顔でいられるか、元気になるか。学力向上や周囲に溶け込めるようになることを焦ってしまいがちですが、こどもの成長はもう少し長い目で見る必要があります。

※1 義務教育に関する意識に係る調査(文部科学省・2023年)

※2 不登校児童生徒の実態把握に関する(文部科学省・2021年)

次回のテーマは「周囲からの期待」を予定しております。ご期待ください。